

「日々の理科」(第 2431 号) 2021, -3, -8

「早春の高尾山紀行 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

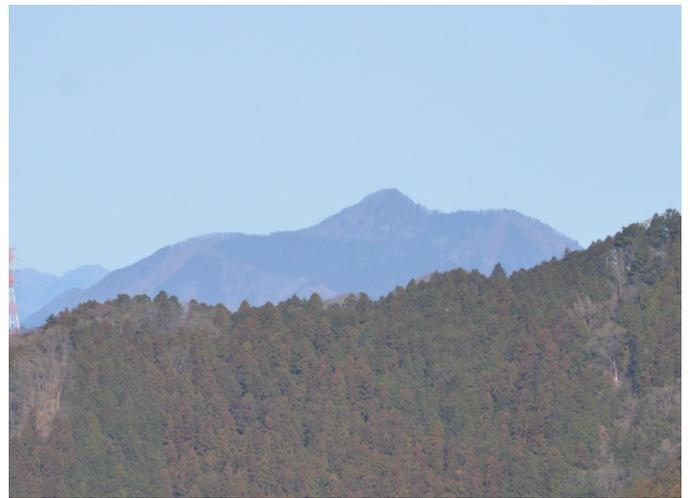
ケーブルカーの線路と鋼索(ケーブル)の仕組みは、本当に興味深い。今回も「自然観察」よりも前に「鉄道観察」---略して「観鉄」をしてしまった。



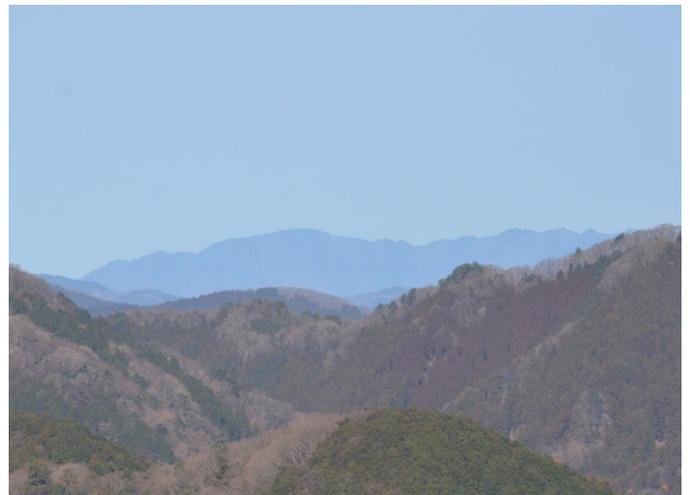
すれ違いの為の分岐器をすぎると、ケーブルを動かす鋼索は2本になる。左側が自分が載っている上り(運行上は下り)の車両をひっぱり上げる鋼索、右側がもう片方の下り(運行上は上り)の車両が落ちこまないように支える鋼索だ。当然逆に動いている。



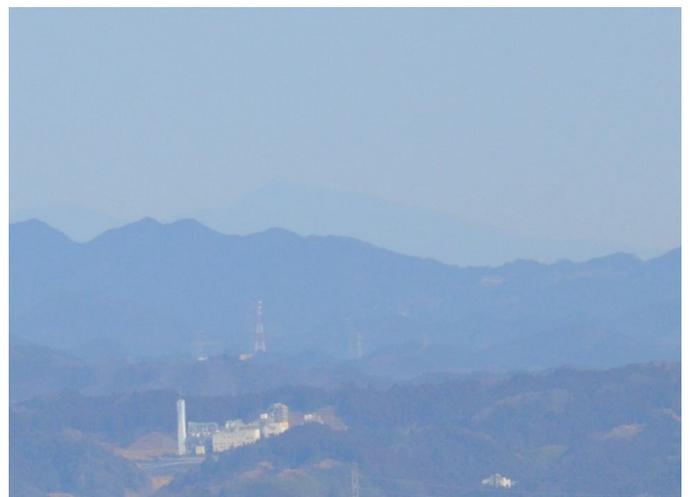
今回乗った車両は30分に1本だったので、車内は結構混んでいた。混んでいれば車両総重量が上がり、急傾斜の線路で鋼索が浮くはずだ。それをもう一度確認したかった。急傾斜の地点では、下の滑車が止まっていて、確かに鋼索は路面から浮いていることを確認できた。だからどうということはないのだが・・・。



山頂駅からは、関東平野を囲む山々がよく見える。この特徴的な山容のピークは奥多摩の「大岳山」だ。私も何度か登ったが、確かに山頂直下に急登がある。この山は中央高速から見てもよく目立つ。



奥武蔵やその周辺の山々もよく見える。写真は恐らく山梨県北東部の「小金沢連嶺」の山々だろう。



この日は春霞(特にスギ花粉)で視程は良くなかったが、かなり遠くの山も見えた。遠くにうっすらと見えているのは100km以上離れた「赤城山」である。